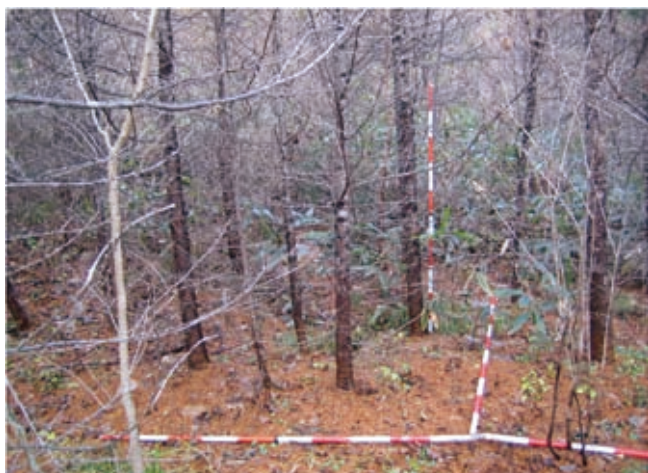




研究発表会の会場



同左



カラマツ天然更新の試験地



インタビューにより森林環境教育プログラムを作成

平成20年度 国有林野事業業務研究発表会

全国の森林管理局等の職員が集まり、
現場業務を通じて得られた
様々な取組の成果が発表されました。

日常業務の中での 努力が伺える発表会

「国有林野事業業務研究発表会」は、全国各地の森林管理局等の職員が、現場業務の発行を通じて得られた取組成果を発表し、これを広く普及させることを目的とするもので、今年度は一月二七日、林野庁にて開催されました。

“森林技術部門”では、森林の効率的な整備や適切な保全を図るための技術などをテーマとした一五課題、“森林ふれあい部門”では、森林環境教育などをテーマとした一三課題がそれぞれ発表されました。

“森林技術部門”では、「カラマツ天然更新における一考察」（東北森林管理局 松尾亨）が、林野庁長官賞最優秀賞を受賞しました。カラマツによる低コストの天然更新技術を開発することを通じ、人工林の複層林化や牧場跡地等の未立木地の森林化を進めようとするものであり、造林作業の低コスト化は林業の活性化を図る上で重要な課題の一つであることから新たな手法として高い評価を受けました。

また、“森林ふれあい部門”では、

「森林環境教育プログラム作成への取組」（近畿中国森林管理局 本田誠）が林野庁長官賞最優秀賞を受賞しました。インタビューという手法を駆使し、そこに住む人々の「語り」から「森林と人とのかかわり」を学び取る大人向けの森林環境教育プログラムであり、多くの教育プログラムがある中であって、プログラム作成にインタビューという手法を取り入れたことは画期的であったと高い評価を受けました。

両部門とも現場ならではの実践的な課題が多く、日々の研鑽の成果が伺えました。また、質疑応答も活発に行われ、最後まで熱気あふれる発表会でした。

審査員（後援団体、林野庁を除く）

〈森林技術部門〉

松浦純生（独立行政法人森林総合研究所水土保全研究領域長）

山崎靖代（林業家）

滑志田隆（日本林政ジャーナリストの会副会長）

〈森林ふれあい部門〉

宮林茂幸（東京農業大学地域環境科学部教授）

中北理（独立行政法人森林総合研究所森林管理研究領域長）

金井久美子（特定非営利活動法人地球緑化センター事務局長）

城戸禮（日本林政ジャーナリストの会幹事）

表彰者一覧

森林技術部門

●林野庁長官賞最優秀賞

東北森林管理局 松尾亨

課題名「カラマツ天然更新における一考察」



●林野庁長官賞優秀賞

四国森林管理局 佐竹祐記 田ノ上真司

課題名「保育作業の省力化についての検討～下刈り・除伐の省力化～」

●日本林政ジャーナリストの会会長賞

関東森林管理局 大野宏之 後藤昭栄

課題名「景観に配慮した治山工法について」

●日本森林技術協会理事長賞

東北森林管理局 尾上好男 木村正彦

課題名「ヒバの巣植えによるヒバ・広葉樹混交林施業の確立」

●林業機械化協会会長賞

中部森林管理局 川本芳光

課題名「『飛騨でもできた』を目指し～民有林・国有林が連携した低コスト作業の取組み～」

●林業・木材製造業労働災害防止協会会長賞

東北森林管理局 古川純 尾形達雄

課題名「現場職員の声を生かした防蜂網改良の一考察」

森林ふれあい部門

●林野庁長官賞最優秀賞

●全国木材組合連合会会長賞

近畿中国森林管理局 本田誠

課題名「森林環境教育プログラム作成への取組」



●林野庁長官賞優秀賞

●日本林政ジャーナリストの会会長賞

●全国森林レクリエーション協会会長賞

東北森林管理局 水野梓

舟形町教育委員会 大山邦博

ブナの実 21 佐藤和夫

課題名「継続する森林環境教育」

●日本森林林業振興会会長賞

北海道森林管理局 荻原裕 豊田領一

課題名「市民参加型植林における遺伝的多様性配慮の実態について～野幌国有林の事例～」